

令和6年度 「未来の教室」実証事業

最終報告書



【事業名】

学校・行政・PTA・地域・企業との連携により、真に個別最適化された探究的な学びを実現・促進するエコシステムを構築する

【事業者名】

WillArch株式会社

【提案書作成日】

令和7年2月22日

- 1 事業者紹介
- 2 実証サマリ
- 3 実施内容
- 4 実証成果
- 5 今後の展望

Appendix：実施体制・実証フィールド 詳細

1. 事業者紹介

会社概要

【企業名】 WillArch株式会社・一般社団法人シブタン
【本社所在地】 東京都渋谷区
【代表者】 代表取締役・代表理事 山田裕介
【シブタンフェロー】 13名
【シブタン事業内容】

- (1) 区立学校と地域・企業等とのコーディネート支援
- (2) 区立学校と連携する地域・企業等の発掘・活用の支援
- (3) 区立学校の要望に基づき、企業が提供する学習プログラムの調整
- (4) 学習発表会の企画及び実施の支援

【企業ロゴ】



一般社団法人
シブタン
SHIBUTAN

代表者略歴

【経歴】

大学卒業後、GAP JAPAN株式会社に入社して、小売店のマネジメント業務に携わる。その後、Apple Inc.にて同社製品の販売・営業を担当。さらにH&M Japan株式会社の日本立ち上げメンバーとして2007年入社、日本の人事責任者として人事業務全般をリード。2018年からWalmart Japan／株式会社西友を経て、2022年からITソフトウェアベンダーであるAvePoint Japan株式会社のVice President、現在は、アサヒビール株式会社人事部長として現職に至る。また中学校2年生と小学校3年生の父親であり、PTA会長6年、渋谷区立小学校PTA連合会の会長3期をつとめた。

About Shibutan

シブタンについて

探究で
こどものみらいを
渋谷から

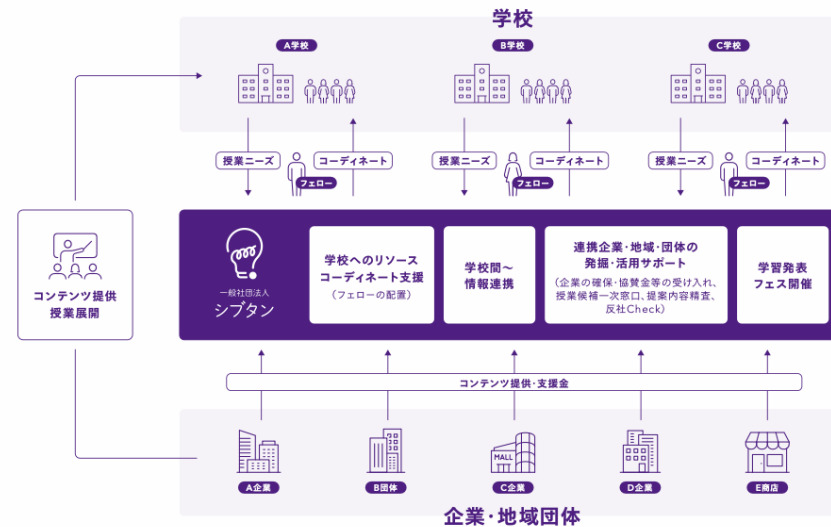


一般社団法人シブタン(シブヤ探究学習ラボ)は、子どもたちの学びを支える応援団として、区立学校のPTA等の有志が設立した団体です。

探究「シブヤ未来科」の拡充に合わせて、地域・企業との連携・拡大が必須ですが、そのための打合せや準備等は教員にとって負担になります。また、地域や企業連携等の取組に学校間の差が生じることが懸念されます。

これらの課題解決を図るとともに、学校・行政・PTA・地域・企業との連携によって、渋谷の街全体を学びのフィールドにした「探究的な学び」を実現・促進するエコシステムを構築することを目的として、教育委員会・学校・PTA連合会のパラレル組織としての運営チームを組成しました。現・旧PTA会長、教育委員会、教育専門家のメンバーが中心となり、次世代公教育の探究学習支援プラットフォームを構築します。

全26校に「フェロー」と称したコーディネーターを配置し、地域リソースの発掘・活用のサポート、連携企業の確保や企業からの提案内容精査、企業プログラム提供に伴う費用負担、保護者・社会連携を進める探究発表会の支援等を通して、子どもたちの学びの質の更なる向上、学校・教員の負担軽減を図ることを狙いとしています。



法人概要

一般社団法人シブタン(シブヤ探究学習ラボ)

渋谷区「立」連記しなくて良いか?

代表理事	山田 裕介	前渋谷区小学校PTA連合会長 / 前渋谷区小中学校PTA連絡協議会長 / 渋谷区神宮前小学校PTA前会長
理事	北村 俊生	渋谷区小学校PTA連合会長 / 渋谷区小中学校PTA連絡協議会副会長 / 渋谷区千駄谷小学校PTA会長
理事	佐々木 健介	渋谷区広尾小学校PTA共同代表
監事	池田 聡史	渋谷区代々木山谷小学校PTA会長
顧問	鈴木 寛	東京大学教授 / 慶應義塾大学教授 / 元・文部科学副大臣 / 日本サッカー協会理事など
	金子 嘉宏	国立大学法人東京学芸大学 教育インキュベーションセンター 教授・学長補佐
	松本 ルキ	原宿表参道博覧会 理事長 オールファッションアート研究所 代表取締役
	安部 忍	渋谷区教育委員会事務局 教育指導課 課長

WEBサイト <https://shibutan.or.jp/>



お問い合わせ info@shibutan.or.jp



ご支援について

当法人は、子ども達の探究学習を支援するため、寄付金のご支援を承っております。多くの法人・団体・個人のご協力をお願い申し上げます。

詳細については、info@shibutan.or.jpまでご連絡ください。



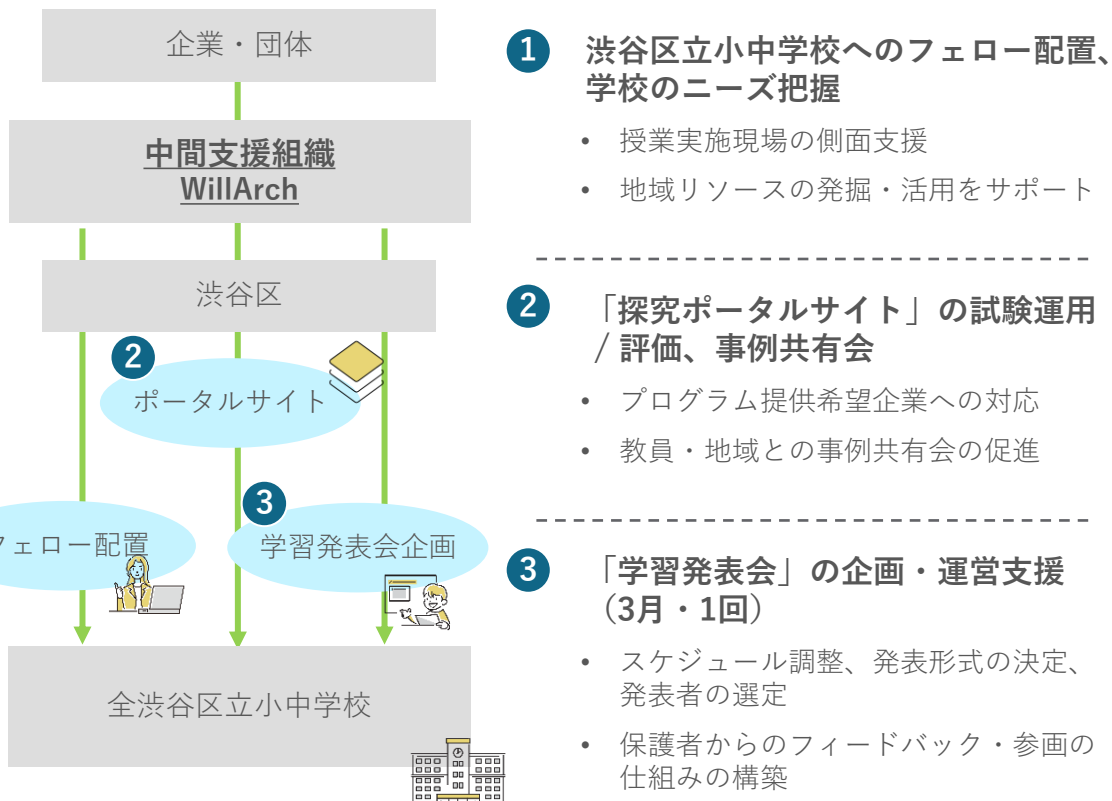
2. 実証サマリ

実証テーマ

学校・行政・PTA・地域・企業との連携により、真に個別最適化された 探究的な学びを実現・促進するエコシステムを構築する

探究学習は、既存の公教育の体制を超えて、地域・企業のリソースを効果的に動員することが必須
教育委員会・学校・教員皆様のこれまでの知見・専門性のみでは難しく、負荷も高い

実証スキーム図・実施内容



実証成果

- 1 (実証成果) 地域を含む学校関係者との関係構築
各校に対しての担当(フェロー・13名)の配置
 - 地域を含む学校関係者との丁寧な対話により団体設立の趣旨、役割等の理解促進
 - 役割が重複するコミュニティスクール、地域学校協働活動推進員との関係整理
 - 定例シブタン運営会議に小・中校長および教育委員会が参加。随時の情報連携
 - 小学校18校、中学校8校に担当者を配置(フェローは基本的にPTA会長経験者)
- 2 (実証成果) シブヤ未来科「探究ポータルサイト」の運用支援
 - 渋谷区の開発した「探究ポータルサイト」(学校・企業等とのマッチングサイト)の運用
 - 教育委員会と連携し、「探究ポータルサイト」の情報に基づくマッチング支援のオペレーションの仕組みを構築(学校間の取組の差が生じないように、学校・教育委員会からの求めに応じ、適宜、シブタンが企業等のリソースを調整・支援)
- 3 (実証成果) 探究フェスの企画・運営支援
 - 小学校18校、中学8校の発表(代々木体育館第2で実施)
 - 渋谷区教育委員会との共催事業として実施
 - 探究活動の情報発信による保護者・地域等の理解促進、企業等との社会連携促進

3. 実施内容

解決すべき課題

- 地域・企業・学校間の連携不足による格差
- 生徒一人ひとりに最適化された学習環境の整備
- 教員の負担増と継続的な学習/支援体制の不足
- 持続可能な運営と情報共有/評価システムの未整備
- 公教育への外部リソース（ヒト、モノ、カネ）の獲得

課題の根本的な原因

- 各ステークホルダー間のコミュニケーションと連携不足
- 教員の時間とリソースの制約
- 評価とフィードバックのシステムが未確立
- 外部リソースを動かすための予算的制約

本実証のテーマ

学校・行政・PTA・地域・企業との連携により、真に個別最適化された探究的な学びを実現・促進するエコシステムを構築する

本実証で特に明らかにしたいポイント

渋谷区 教育委員会と、保護者・PTAを基盤とした外部組織が効果的に連携し、以下の点で成果検証を行う。

- ①地域連携の深化: 渋谷区地域コミュニティ、企業、学校間の連携を強化し、外部リソースを獲得しながら持続可能な教育エコシステムを構築する方法を探る。
- ②個別最適化された学び（My /Our 探究）の実現: テクノロジーを活用し、生徒一人ひとりに合わせたカスタマイズされた探究の学習環境を提供するための実践的なアプローチを検証する。

実証内容	実証目的	実施内容
<p>実証① 学校現場へのリソースコーディネート支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 渋谷区内各地区・区立小中学校に担当者（フェロー）を配置 • 学校とのコミュニケーション・ニーズの把握 • 地域リソースの発掘・活用をサポート • 授業実施現場の側面支援 	<p>地域を含む学校関係者との関係構築 各校に対しての担当（フェロー13名）の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校との丁寧な対話により団体設立の趣旨、役割等の理解促進 → 当初、学校からは様々な疑問・期待・要望などあり。シブタン設立の意図・機能等について教育委員会と連携し丁寧な議論を積み重ね理解促進を図る • コミュニティスクール、地域学校協働活動推進員との関係整理 → 既存学校支援組織(コミュニティスクール、地域学校協働活動推進員)とは地域リソースの提供・支援の面で一部役割が重複するため、関係性を整理し説明 • 毎月のシブタン運営会議に小中校長および教育委員会が参加。情報連携。 • 小学校18校、中学校8校に担当者配置(フェローは基本的にPTA会長経験者)
<p>実証② 教育委員会と連携した仕組み化の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校と地域リソースをマッチングする「オンラインプラットフォーム」の試験運用を支援 • プログラム提供希望企業への対応 • 教員・地域との事例共有の促進 	<p>シブヤ未来科「探究ポータルサイト」の運用支援</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育委員会と連携し、「探究ポータルサイト」の情報に基づくマッチング支援のオペレーションの仕組みを構築（学校間の取組の差が生じないよう、学校・教育委員会からの求めに応じ、適宜、シブタンが企業等のリソースを調整・支援） • 反社チェック機能
<p>実証③ 保護者・社会連携を進める学習発表会の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学習発表会の企画・実施支援（教育委員会と連携） • 保護者からのフィードバック・参画の仕組みの構築 	<p>探究フェスの企画・運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小学校18校、中学8校の発表(代々木体育館第2で実施) • 渋谷区教育委員会との共催事業として実施 • 渋谷区の探究を応援してくれる企業参加 • 探究活動を広く情報発信。区民や保護者等に対する理解促進や、企業等との社会連携を促進

3 - ③ 実施経過

2024年度

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

◆ 運営会議

キー
マイル
ストーン

▲ 9月6日
シブタン設立日

▲ 12月1日
教育委員会と
イベント内容
の合意

▲ 12月27日
協定締結

▲ 3/12
探究発表会

◆ 8月23日

◆ 9月27日

◆ 10月25日

◆ 11月22日

◆ 12月20日

◆ 1月29日

◆ 2月28日

◆ 3月14日

運営

- 各学校への運用方法の説明
- 保護者への全体説明

- 学校保有の情報をシステムへ連携

- 協力企業・団体評価期間

- 新規登録企業・団体への営業活動

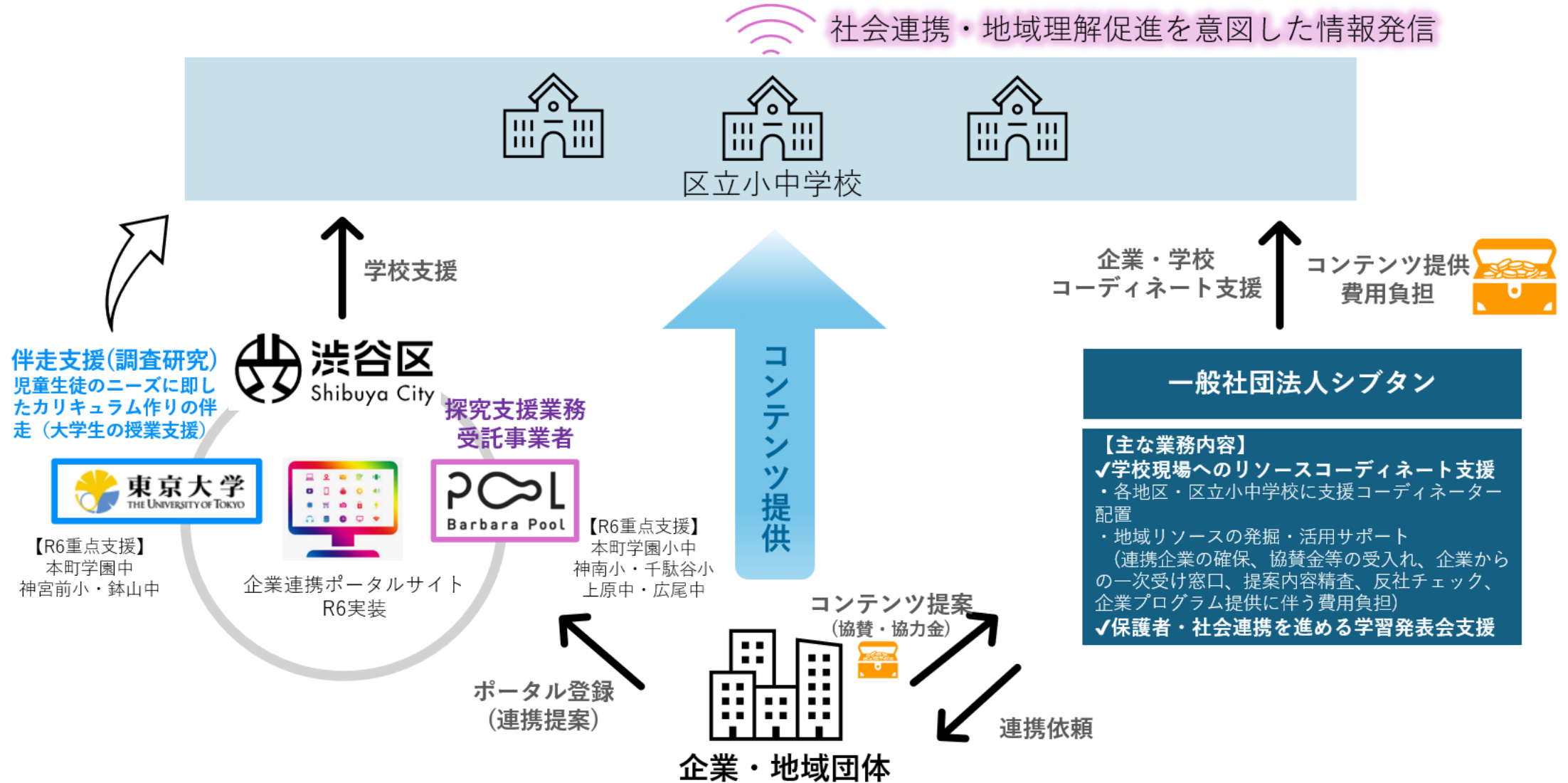
イベント

- イベント業者選定 & 決定

- イベント設計

- イベント準備期間

学校×行政×PTA×地域・企業連携 「探究シブヤ未来科」エコシステム



4. 実証結果

実証論点	実証成果	実証成果に対する考察
実証① 学校現場へのリソースコーディネート支援	地域を含む学校関係者との関係構築 各校に対するの担当（フェロー13名）の配置 <ul style="list-style-type: none"> 地域を含む学校関係者との丁寧な対話により、団体設立の趣旨・役割等の理解促進 役割が重複するコミュニティスクール、地域学校協働活動推進員との関係を整理し、関係者への説明 定例シブタン運営会議に小・中校長および教育委員会が参加。随時の情報連携 小学校18校、中学校8校に担当者を配置（フェローは基本的にPTA会長経験者） 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな中間支援組織であるため、関係者から十分な理解を得ることに時間を費やした。当初、学校からは様々な疑問・期待・要望などあり。シブタン設立の意図・機能等について教育委員会と連携し、丁寧な議論を積み重ね理解促進を図ることが、円滑なコーディネートには重要 既存の学校支援組織(地域学校協働活動推進員等)と地域リソースの提供・支援の面で一部役割が重複。学校現場における混乱を避けるため、既存組織とシブタンとの関係を整理し、関係者の理解促進を図ることが重要 渋谷区を北部、中部、南部の3つのエリアに分けてエリアでフォローをアジャイルにした。大きな枠では質問がし難い
実証② 教育委員会と連携した仕組み化の促進	シブヤ未来科「探究ポータルサイト」の運用支援 <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会と連携し、「探究ポータルサイト」の情報に基づくマッチング支援のオペレーションの仕組みを構築（学校間の取組の差が生じないよう、学校・教育委員会からの求めに応じ、適宜、シブタンが企業等のリソースを調整・支援等） 反社チェック機能 12月に渋谷区と連携協定締結・プレスリリース（コーディネート支援、企業等の発掘・活用支援、学習発表会の企画・実施支援 等） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・教育委員会・企業等といった既存の連携の枠組みにおけるボトルネックを把握した上で、エコシステムにおけるシブタン（中間支援組織）の役割を明確化することが重要。これを踏まえたオペレーションをポータルサイト運用に取り込んだ。 中間支援組織として自走するためには、公的な連携が必須。公的な連携を通じた活動の情報発信が有効であり、協定締結後のプレスリリースにより、企業との連携が急増
実証③ 保護者・社会連携を進める学習発表会の支援	探究フェスの企画・運営支援 <ul style="list-style-type: none"> 小学校18校、中学8校の発表(代々木体育館第2で実施) 渋谷区教育委員会との共催事業として実施 渋谷区の探究を応援してくれる企業参加 探究活動を広く情報発信。区民や保護者等に対する理解促進や、企業等との社会連携を促進 	<ul style="list-style-type: none"> 共催として参画することで、行政単独実施よりも資金面での機動性が確保される（企業協賛金等を充当）。 従来の教育とは異なる探究的な学びの取組は、保護者の理解が必須。行政からのアプローチとは異なり、PTA中心の中間支援組織の関与自体により、広く保護者の理解と共感を得られることが期待できる。 シブタンの活動を持続可能な取組とするためには、活動に賛同する保護者を継続的に確保することが必要。イベントを通じた活動内容の発信は、人材確保に繋がるのが期待できる。 探究フェスへの関与により、シブタンの活動が広く情報発信されるため、今後の協賛金確保を含めた企業等との連携促進が期待される。 約1ヶ月前には最終化が必要。したがって6ヶ月前くらいには方向性を学校とアライ

全体へのトーンセットは必須でありながらも、個別理解を得るための丁寧なコミュニケーションが肝要である。

校長会説明資料

地域学校協働活動推進員連絡協議会説明資料

コミュニケーション ステップ

1 教育委員会およびシブタンでの情報の整理・合意形成

2 関連各所での説明
(校長会、地域学校共同活動推進員連絡協議会など)

3 学校現場への説明&理解

3 従来まで
支援いただいていた団体
(コミュニティスクール、
地区委員会、町会など)

4 シブタンフェローからの個別説明フォローアップ

令和6年11月6日
校 園 長 会 資 料
教 育 指 導 課

一般社団法人シブタンについて

1 目的
学校・行政・PTA・地域・企業との連携を強化し、個別最適化された探究的な学びを実現・促進するエコシステムを構築すべく、PTA 連合会のパラレル組織として民間主体とした統合運営チームを組成し、特に「シブヤ未来科」を推進する教育委員会・小学校・中学校の現場を支え、子どもたちの学びを促進する「次世代公教育の探究学習支援プラットフォーム」を創る。

2 主な業務内容
(1) 学校現場へのリソースコーディネート支援
・各地区・学校に支援コーディネーター（フェロー）を配置
・地域リソースの発掘・活用をサポート（連携企業の確保、協賛金等の受入れ、企業からの一次受け窓口、提案内容精査、反社チェック、企業プログラム提供に伴う費用負担）
(2) 教育委員会と連携した仕組化の促進
・探究ポータルサイトの運営支援
(3) 保護者・社会連携を進める探究発表会の支援
・探究発表会の企画・実施支援

3 実施体制

役職	氏名	役職	氏名
代表理事	山田 知介	シブフェロー	生駒 浩平
理事	北村 俊生	シブフェロー	菅田 聡子
理事	佐々木 健介	シブフェロー	村竹 あつこ
理事	北田 悠介	顧問	鈴木 真
常務役員	神田 涼平	顧問	松本 ルネ
フェロー	松澤 隆子	顧問	安部 悠
フェロー	栗島 智貴	顧問	金子 真菜
フェロー	笠木 玄輔		
フェロー	美田 雄二		
フェロー	榎村 明宏		
フェロー	和田 浩二		

令和6年11月1日現在

4 学校への支援体制

学校単位での情報のサイロ化を解消して、子どもたちへ最適な探求の学びへ

URL; <https://tankyu-shibuya.com/>



サポート方法について

<p>伴走型</p> <p>伴走型では、個人や少人数で探究をする際に、内容や方法に関して個別の支援や助言をいただき、子どもたちがより深い質の高い探究ができるようになります。</p> <p>参考例はコチラ もっと詳しく ></p>	<p>共同プロジェクト型</p> <p>子どもたちと共同で、商品開発やデザインをしたり、実際に地域や社会に対するアクションを起こしたりしていただきます。</p> <p>参考例はコチラ もっと詳しく ></p>
<p>リソース提供型</p> <p>企業・団体の皆様ならではのリソース(知見、メソッド、特殊機材、最先端機器、ソフトウェア等)提供により、子どもたちの探究を支援していただきます。</p> <p>参考例はコチラ もっと詳しく ></p>	<p>出前授業型</p> <p>企業・団体の皆様のリソースを活かした、出前授業をご提供いただきます。(※但し、内容について相談の上アレンジしていただく場合があります。)</p> <p>参考例はコチラ もっと詳しく ></p>



探Q先生
登録から事業実施までの流れ

- 1 サイト登録**

本サイトは、ログインをして活用していただくことを想定しているポータルサイトのため、まずは新規登録をお願いいたします。

学校・教職員向け [新規登録はこちら >](#)

企業・団体向け [新規登録はこちら](#)
- 2 マッチング**

学校~企業・団体間のマッチングが成立するとコネクトチャット(チャットルーム)が立ち上がります。
*以下、企業・団体は「シブヤ未来科パートナー」と呼称
- 3 事前打ち合わせ**

学校~シブヤ未来科パートナーで事前に授業内容の打ち合わせをオンラインミーティングをすることを推奨しています。
- 4 探究サポート開始**

実際に、子どもたちの探究への参画・支援をお願いします。

学校・教職員のみなさんへ

本サイトは、探究「シブヤ未来科」に取り組まれる学校・教職員の皆さまのサポートを目的として作られているポータルサイトです。探究「シブヤ未来科」の具体的な事例を調べ、外部(企業・団体)とつながり、探究的な学びを実施していきましょう!

学校・教職員向け [ログイン >](#)

企業・団体のみなさんへ

渋谷区の子どもの探究的な学びを、応援してみませんか? 探究「シブヤ未来科」を知り、具体的な事例を確認し、探究「シブヤ未来科」のサポートを行うことができます。

サポートいただいた企業は、シブヤ未来科パートナーのロゴを自社ホームページに掲載いただくことが可能です。

企業・団体向け [ログイン >](#)

[新規登録はこちら >](#)

コネクトチャットについて

学校・教職員の皆さんへ

まずは新規登録、ログインをしていただき、子どもたちがどんなことを体験したり学んだりしたいのかをイメージして、ジャンルを選んでみましょう!

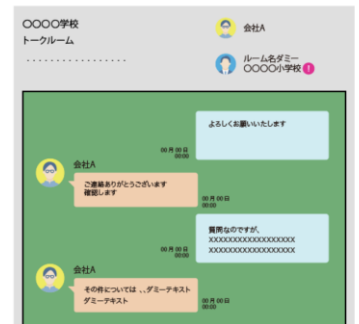
そのジャンルごとに合った企業・団体がPick Upされるので、その中で企業・団体を選び、選択すると、コネクト(連携)することができます!

その後、コネクトチャットが立ち上がるので、その画面から 企業・団体とやり取りをしてみましょう!

企業・団体の皆さんへ

まずは新規登録していただき、その後、学校が企業・団体を選択するとコネクトチャットが立ち上がります。そちらで、学校・教職員とのやり取りをお願いいたします。

- 1 どんな体験をしたいのかな
- 2 ジャンルを選択
- 3 企業・団体とつながる



News

保護者のみなさんへ [>](#) 児童生徒のみなさんへ [>](#)

ハチロボ

4-① 実証成果 詳細 <実証 探究フェスの企画>

シブヤ未来科 2024年度 探究発表会 (原案)
学習発表会の実施のねらい

本年度のねらい：

スタート初年度として、まずは関係者で「現在地を共有」し、
今後の可能性に対して「インスピレーションを得る機会」とすること

1. 対 保護者：
→ 取り組みの進捗を共有・理解を深める機会とする (シブヤ未来科、いいね！)
2. 対 先生方 (管理職または探求コーディネーター教員)：
→ 事例共有・相互学習の機会とすること (次年度へのインスピレーション)
3. 対 社会：
→ 現状についてのコミュニケーションの機会とすること
(今後へのさらなる期待、注目していきたい！)

(翌年度以降は)

4. 対 児童・生徒：
→ こども同士で学校を超えた刺激や、テーマを深めるインスピレーションの機会とする (多様なブース出展や出会いの場)
5. 対 支援団体・企業 (候補企業) 向け
→ 取り組みの意義の理解・発信の機会とすること (積極的な共感者拡大)

将来の理想的なイメージ：

児童生徒が多様な気付きや出会いでテーマを深める。クラウドファンディング・投資などで動きが加速する。先生方も新たな出会いとインスピレーションを得る。マーケットプレイス的な場。



写真はイメージ：(引用元) こども未来グランプリ 2019 (株式会社グローバルキャスト)

2024/11/11 渋谷区教育委員会・一般社団法人シブタン

シブヤ未来科 2024年度 探究発表会 (原案)

4：当日のコンテンツ

第1部：オープニングプログラム
13:45-14:30 (45分)
(メインステージで実施)

- ・ (5分) オープニング演奏 (パシフィックフィルハーモニア東京)
 - PPH指揮
 - 今日のプログラム (司会)
- ・ (5分) 開会の挨拶 (渋谷区長)
- ・ (25分) 特別ゲストによるキーノート (こどもたちのパネルトーク)
 - 東京学芸大学 金子先生 (仮) (全国のよい事例や目指したい像など)

※全体でよい事例を共有し目線をはわせることが趣旨。



第2部：ブースセッション
14:45-16:15 (90分) (外周ブースとメインステージで実施)

こども・学校プレゼンテーション (外周ゾーンで実施)

- ・ 各校代表者 (代表チーム) と担当教員によるプレゼンテーション (持ち時間各15分 (プレゼン10分・フィードバック5分の想定))
- ・ **7ブース×4ターンの合計28コマ**で実施し、参加者は話を聞いてみたいブースに移動する。詳細次ページ。(時間帯毎に、グループを変わるのも可)
 - 各ブースに、**プロジェクタ・音響**を準備。各ブースの大きさ・形状等は継続検討。



アリーナ・ブースセッション (アリーナ内ブースで実施)

- ・ 希望する学校、関係企業・団体、招待団体等による、ブース運営
 - 各ブースは、長机2つのみ。

クロージング
16:20-16:30 (10分)
(メインステージで実施)

- ・ 参加者同士で対話&シェア
- ・ ゲスト、こども、参加者からコメント

16:30閉会
(公式プログラムはここで閉会)

交流会
16:45-18:30
(メインステージで実施)

- ・ 任意で教員皆様、児童 (保護者同伴)、生徒、ゲスト

6

シブヤ未来科 2024年度 探究発表会 (原案)

当日の会場活用案 (会場イメージ案)



会場概要：

- ・ アリーナ面積：1,300㎡ (可動席部分を含む)
- ・ アリーナ可動席 (314席) はスタンド席下に収納可。
- ・ 1階スタンド席 (固定) (2,803席)

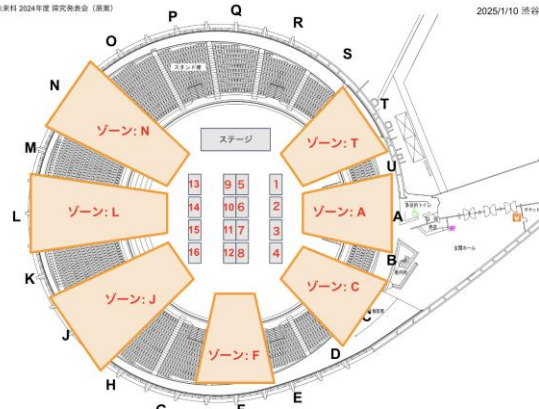
当日活用想定：

- ・ アリーナ部分 (可能席は収納してフラットに活用) での実施
- ・ メインステージ、メイン客席は、全員コンテンツで使用。400人着席想定。
- ・ A~Iのグループブースは、それぞれ着席50名とプロジェクター・音響の設定を想定。(アリーナ内か、観客席かは要検討)
- ・ 各校プレゼンテーション (A~G) と他コンテンツ (G,H 専門家セッション、企業ブース等) で使用を想定。

※ 会場下見未実施のため上記人数などは、変更あり。

シブヤ未来科 2024年度 探究発表会 (原案)

2025/1/10 渋谷区教育



シブヤ未来科 2024年度 探究発表会 (原案)

こども・学校プレゼンテーションのイメージ案 (持ち時間15分)

- ・ 各ブースにて、各校代表者 (代表チーム) と担当教員によるプレゼンテーション & 質疑応答を行う。持ち時間は15分。
- ・ 基本的には、パワーポイント等を活用したプレゼンテーションを想定するが、作成したものの発表や体験会の実施など形式は問わない。
- ・ オンラインツールなども使い多様なフィードバックが集まるように工夫する。
- ・ 各ブースは、50人の席、プロジェクター・音響を設置。

※ 以下、仮のイメージ。学校名は仮。各時間帯の間は10分バッファ。

	グループA	グループB	グループC	グループD	グループE	グループF	グループG
14:45-15:00	神南	猿楽	上原	中幡	神宮前	広尾	原宿外苑
15:10-15:25	臨川	加計塚	笹塚	千駄谷	本町学園	鉢山	笹塚
15:35-15:50	長谷戸	常盤松	西原	鳩森	代々木山谷	上原	松涛
16:00-16:15	広尾	幡代	富谷	幼稚園1	幼稚園2	代々木	本町学園

(プレゼンテーションの内容イメージ案)

1. 導入 (1分)
 - 挨拶とチーム紹介 (代表児童・生徒または教員)
 - 学校名とプロジェクトのタイトルを簡潔。
2. テーマと目的の説明 (2分)
 - 探究テーマの選定理由 (代表児童・生徒)
 - なぜこのテーマを選んだのか、テーマに至った背景や動機を説明。
 - 探究の目的とゴール (代表児童・生徒)
 - この探究学習を通じて何を目標としたのか、具体的なゴールを説明。
3. 探究のプロセス (4分)
 - 調査と研究の方法 (代表児童・生徒)
 - どのような方法で調査や研究を行ったのか、フィールドワークやインタビューの内容などを紹介。
 - 課題の発見と解決策の模索 (代表児童・生徒)
 - 調査や研究の過程で直面した課題と、その解決に向けた取り組み、児童・生徒自身の気づきや、グループディスカッションの内容を紹介。
4. 結果と学び (2分)
 - 得られた成果と結論 (代表児童・生徒)
 - 調査や研究の結果として得られた成果、結論を発表します。
 - 具体的なデータやグラフ、図表を用いることで視覚的に伝えることを推奨。
 - 学んだことと今後の展望 (代表児童・生徒)
 - 探究学習を通じて生徒が学んだことを振り返り、今後の課題や次に挑戦したいことを説明。
5. 教員からの補足・総括 (1分)
 - 探究活動の振り返りと支援内容 (担当教員)
 - 教員が生徒たちの探究プロセスを振り返り、どのようなサポートを行ったかを説明。
 - 生徒たちの成長や努力を簡潔に評価し、今後の期待を述べる。
 - 小学校の場合は、相対的にこの部分を多く説明することも検討。
- ・ 質疑応答&フィードバック (各5分)



共催：渋谷区教育委員会・一般社団法人シブタン

シブヤ未来科探究フェス

渋谷区立全校の児童・生徒、教員が一同に集まり
子どもたちの学びの集大成として探究発表会を開催します

3.12 水 国立代々木競技場第二体育館
13:45-16:30

オープニング

特別ゲストによる
キーノートセッション
(メインステージ)

学校ブース

渋谷区立全校の児童・
生徒、教員たちが集ま
りプレゼンテーション

企業ブース

子供達が企業と相互に意
見交換をし、商品開発や
運営に関わる為のコミュ
ニケーションブース

【お問い合わせ先】

一般社団法人シブタン事務局: info@shibutan.or.jp

※(一社)シブタンの設立及び運営は、令和6年度 経済産業省 「未来の教室」 事業に採択されています。



探究学習

探究「シブヤ未来科」とは？

渋谷区立学校の「探究「シブヤ未来科」」では、地域や企業等と連携し、実社会やホンモノに触れながら、創造的に課題解決を図る「探究的な学び」を実践しています。



渋谷区では、令和6年度から総合的な学習の時間を従来の2倍程度に増やし(文部科学省授業時数特別校制度を活用)区立小中学校全校で、午後の授業を中心に探究の学びが展開されています。

渋谷区が考える「未来に必要な3つの能力」

未来に生きる能力

自ら考え判断して学び続ける
自己調整力



多様な仲間と協働して新たな価値を生み出す
創造力



自分が思い描く未来を実現する
挑戦力



シブタン

子どもたちの未来をつなぐ架け橋



学校と地域・企業等とのコーディネート支援



連携する地域や企業の発掘・運用管理



学習プログラムや探究フェスの企画及び実施の支援



企業からの寄贈を探究学習に活かす為のアレンジメント

協賛企業随時募集

問い合わせ先

一般社団法人シブタン事務局

info@shibutan.or.jp



5. 今後の展望

<成果>

- ・ 組織組成 : 社団法人設立と、メインメンバーの登用配置の完了と教育委員会や有識者（顧問）との協力体制及び会議体のリズムの確立
- ・ 学校長との協力体制 : 教育委員会の支援もあり、運営会議に学校長が参加。今後の連携がスムーズになる
- ・ R6経産省実証事業採択 : 社団法人設立と、メインメンバーの登用配置の完了および教育委員会や有識者（顧問）との協力体制の確立

<課題と依頼事項>

- ・ 活動拠点 : 都心部においては活動拠点の確保が課題。地域の中間支援組織として行政施設内で拠点が確保されることが望ましい
- ・ エクスポーザーの向上 : 当団体と渋谷区との協力体制が強固であることの露出をあげて、保護者および企業の協力流入を向上させたい
- ・ ふるさと納税の仕組み : 行政における支援として、ふるさと納税の枠組みにおいて、社団法人に対しての寄付モデルが確立されることで寄付が加速する

Appendix : 実施体制・実証フィールド 詳細

事業受託者 : WillArch 株式会社
・ 統括責任者 : 山田 裕介 (代表取締役)

事業委託者の支援の元、一般社団法人シブタンを新しく設置。設置予定団体の立て付けは以下のとおり

実施体制

発起人：

- ・ 山田裕介（R3,4,5年度渋谷区小学校PTA連合会会長/区立神宮前小学校前PTA会長）
- ・ 北村俊生（R6年度渋谷区立小学校PTA連合会会長/区立千駄谷小学校PTA会長）
- ・ 佐々木健介（区立広尾小学校PTA共同代表）

さらに渋谷区関係者（校長OBも協力予定）も協力予定

補足：渋谷区教育委員会と連携協定を12月締結。教育委員会との事業連携のもと、事業を運営

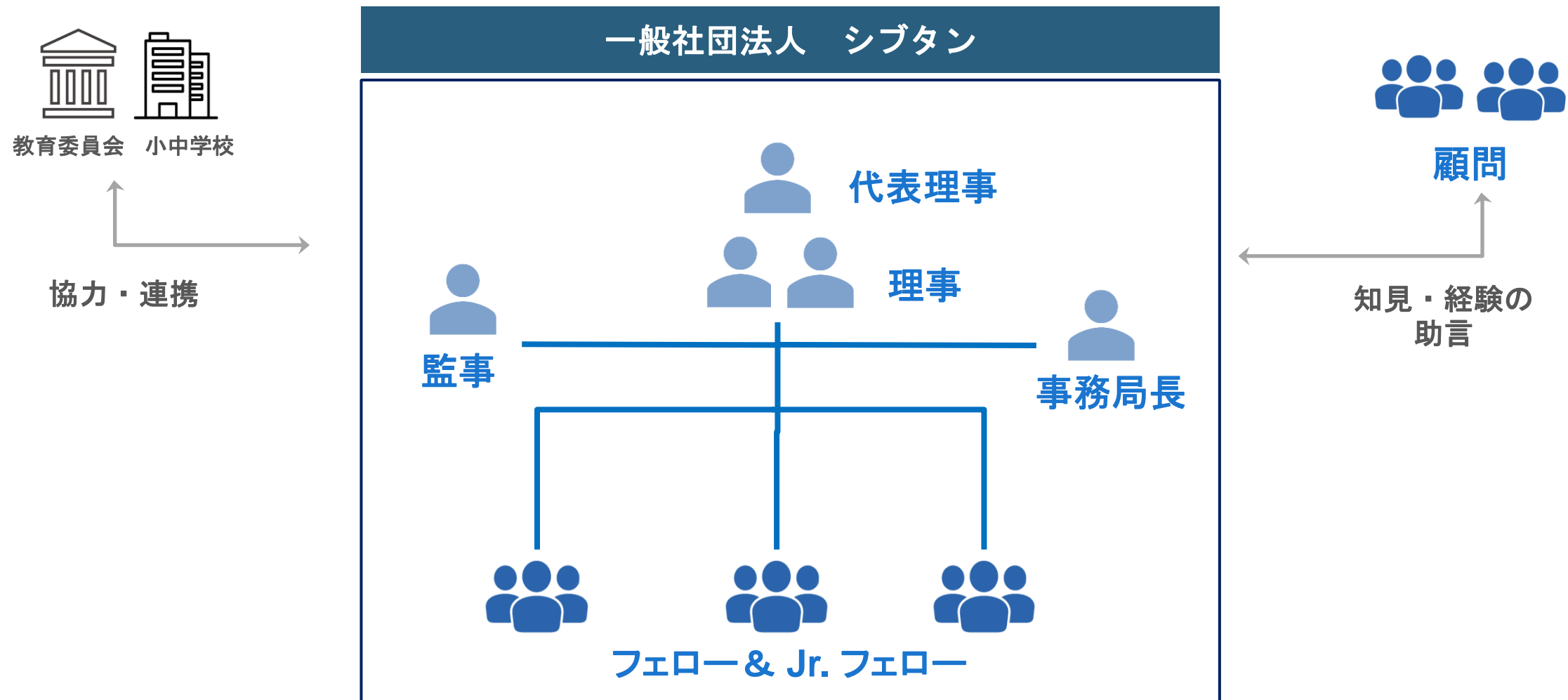
1. 渋谷区立小学校

- ・ 所在地：渋谷区内18校
- ・ 対象生徒：約7,400名
- ・ 特徴：渋谷区全ての小学校を対象とする

2. 渋谷区立中学校

- ・ 所在地：渋谷区内8校
- ・ 対象生徒：約1,900名
- ・ 特徴：渋谷区全ての中学校を対象とする

シブタンの組織体制については、以下の体制を想定しております。



現在のメンバーは以下のメンバーで構成。今後顧問及びフェローも増員予定

役割	氏名
代表理事	山田 裕介
理事	北村 俊生
理事	佐々木 健介
監事	池田 聡史
フェロー	相澤 陽子
フェロー	荒島 智貴
フェロー	笠木 友輔
フェロー	黒田 潤三
フェロー	種村 明宏
フェロー	和田 浩二

役割	氏名
Jr. フェロー	曾田 範子
Jr. フェロー	村竹 あつこ
顧問	鈴木 寛
顧問	松本 ルキ
顧問	安部 忍
顧問	金子 嘉宏